

## マルチ人間大槻文彦の諸相 —大槻文彦と吉野作造—

東北大学大学院文学研究科 後藤斉

2020年2月8日

於 東北大学 片平北門会館 社会連携スペース エスパス

大槻文彦(1847~1928)は明治期に日本初の近代的国語辞典『言海』(1889~1891)を編纂した国語学者として知られている。しかし、大槻の知的関心は国語辞典と日本語文法の編纂を軸としながらも、多方面にわたってからみあっていたのだ。大槻は校長として2度仙台に赴任したほか、教育の分野で様々な貢献をした。中学校での教え子、吉野作造からは終生にわたって敬愛を受けた。この講義ではこの二つの観点から大槻のマルチな活動に迫ろうと思う。

### 1. 教育者 大槻文彦

江戸生まれ。祖父玄沢の蘭学を継いで英学修業。明治初年に海防論。翻訳書『万国史略』(1874)、『羅馬史略』(1874)、『印刷術及石版術』(1880)、『言語篇』(1885)。訳稿『亞非利加誌』(1874)。洋学史の紹介。終生旧仙台藩士の意識を持ち続け、仙台・旧伊達藩領域の教育・文化活動などに関与・援助。1873年宮城師範学校初代校長。

宮城県尋常中学校(現仙台一高)初代校長(1892~1895)

廃校となった清水小路の東華学校の敷地校舎備品を借用し、生徒を編入。

- ・新校舎(南六軒丁、「大槻の記念物」)の落成式(1899. 7. 20)で演説。
- ・校歌作詞(1909)。前年に元茶畑(現仙台一高敷地)にほぼ同形の校舎建設。
- ・仙台一中創立三十年記念式(1922. 6. 6)で演説。

### 2. 吉野作造 (1878~1933)

現大崎市古川出身。政治学者、大正デモクラシーの旗手。社会運動家、明治文化研究会会長。宮城県尋常中学校の創立時に入学し首席で卒業、のち第二高等学校、東大法科卒業。1910~13年の欧米留学中に積極的に諸言語を学び国際交流。のちにはロシア語、オランダ語も学習。日本における国際語 에스ぺ란ト の先駆者(1903年学習、1919年再学習、日本 에스ぺ란ト 学会理事も)。大崎市古川に記念館。

・仙台一中創立三十年記念式(1922. 6. 6)で演説する予定をキャンセル。『創立三十年記念号』への寄稿「西洋人の日本語研究」をメ切後に提出し、辛うじて掲載される。

### 3. 吉野作造の恩師大槻文彦への敬愛

- ・郷土の人に贈られた『言海』を携えて仙台に進学した吉野。大槻を「好学の志向を起こさせし人」の一人と。大槻の倫理の授業で林子平百年祭にちなむ話。洋学史も？
- ・大槻校新井白石『西洋紀聞』(1882)と吉野『主張と閑談 新井白石とヨワン・シローテ』(1924)(1708年に屋久島に潜入して捕縛されたイタリア人宣教師シドッチを、翌年新井白石が取り調べて、世界地理やキリスト教教義について『西洋紀聞』と『采覧異言』を著述)
- ・「西洋人の日本語研究」(1923)ほか、西洋人日本語研究に関する吉野作造の論考
- ・吉野ら在京の教え子(壬辰旧雨会)、大槻の古稀の記念に胸像を贈る(のちブロンズ像)
- ・吉野蔵書中の大槻著編訳書

## 参考文献

- 飯田泰三 1994 「吉野作造随筆解題」『法学志林』92:2, 95-141.
- 飯田泰三 1996 「〈解説〉吉野作造の留学時代」『吉野作造選集』13巻, 413-439.
- 川原次吉郎編 1933 『古川余影』私家版。(復刻版 1995 吉野作造記念館)
- 後藤斉 2016 「西洋人日本語研究に関する吉野作造の論考」『東北大学言語学論集』24, 1-14.
- 後藤斉 2019 「洋学者としての大槻文彦」東北大学大学院文学研究科講演・出版企画委員会編『ハイブリッドな文化』東北大学出版会, pp.75-119.
- 佐々木慶市編 1956 『仙台一高六十年史』宮城県仙台第一高等学校同窓会.
- 西田耕三編 1993 『吉野作造と仙台』宮城地域史学協議会.
- 吉野作造 1995-1997 『吉野作造選集』全15巻+別巻1 岩波書店.
- 吉野作造 太田雅夫・宮本由美訳 1997 「吉野作造「日本における新思想」(1920)」『桃山学院大学教育研究所研究紀要』6, 199-218.
- 『学友会雑誌』5, 宮城県中学校学友会, 1899.
- 『創立三十年記念号』宮城県仙台第一中学校学友会, 1923.
- 『宮城県立仙台第一中学校一覽』s. d. [1907. 12 現在]